

和泉・久保惣

ミュージアムタウン構想

平成29年2月

和泉市

目次

1. 背景と目的	1
2. 対象区域	1
別図1	2
3. 現状と課題	3
(1) 和泉市久保惣記念美術館を取り巻く状況	3
(2) 対象区域を取り巻く状況	4
4. 構想の理念	6
5. 構想の位置付けと運用方法	6
6. 実現に向けた目標と方針	7
目標1 質の高い「時」を生み出す空間デザイン	7
目標2 機能的な交通システム	8
目標3 公民連携によるエリアマネジメント	8
7. 推進体制	9

1. 背景と目的

我が国は、これまで経験したことのない人口減少と少子化、超高齢社会に突入している。今後、地域によって程度の差はあるものの、この傾向はより鮮明になることが予想され、これまでの人口や経済が右肩上がりすることを前提とした考え方から脱却した、時代の転換期に応じた新たなまちづくりの理念を構想することが求められている。

他方、社会が成熟化するにつれ、豊かさの尺度として、物的な充足から、精神的な充足への移行、生活の質が重要視されるようになり、これに呼応する形で、歴史や文化に対する知的欲求の充足を始めとする様々な国民的期待や関心が高まっている。こうした期待や関心に応える素地が地域文化の中核である美術館や博物館にはあり、その活動を通じて地域において果たす役割は大きく、地域活性化の取り組みとの親和性も高い。

本市には、東洋古美術を中心として、国宝 2 点、重要文化財 29 点を擁する市町村レベルでは国内屈指の美術館である「和泉市久保惣記念美術館」があり、昭和 57 年の開館以降、音楽ホールや市民ギャラリー等が順次整備され、和泉市の文化発信拠点として、確固たる地位を築いており、これまでに蓄積された文化資源を生かした活動に対する市民の期待値も高いものがある。

このような背景の中、本市においては、平成 28 年 5 月に「第 5 次和泉市総合計画」を策定し、まちづくりの基本方針を「定住志向の向上」と「交流人口の拡大」として、まちの強みや特色を最大限に生かしたまちづくりに取り組み、人や企業から「選ばれる都市」の実現を掲げている。その具体的な取り組みの一つとして、和泉市久保惣記念美術館周辺地域を「美術館のあるまち」としてブランド化を図る「ミュージアムタウン構想」を推進することとしている。

本構想が対象とする和泉市久保惣記念美術館周辺地域は、大阪の郊外に位置し、泉北高速鉄道と和泉中央駅の沿線という立地上、住宅地開発によって新たな住民が数多く流入している地域である。また、明治期以来繊維産業が栄えた地域でもあり、連綿と続く営みを感じられる古からの街並と新たに形成された街並が混在する閑静な環境にある。

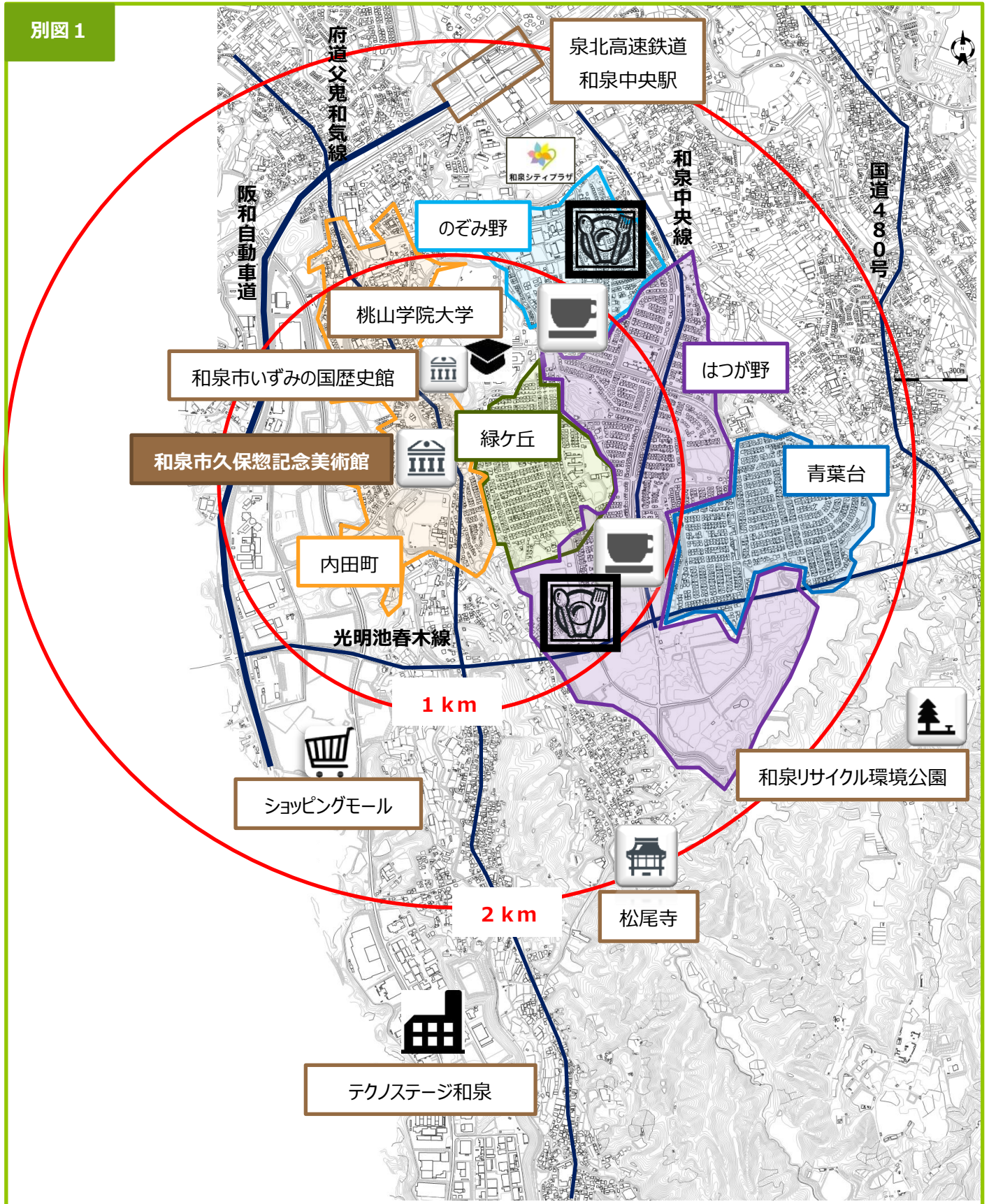
こうした環境の中で、地域内には、様々なアーティストの作品が常設展示され市民活動拠点の複合施設である和泉シティプラザやカフェ、レストラン等が集積するのぞみ野地区、はつが野地区、また、数多くの学生が往来し活況を呈している桃山学院大学や桜・紅葉の名所として知られる松尾寺などが点在しており、コンパクトなエリアの中で高質な暮らしと地域集客を実現できるまちとして高いポテンシャルを有している。

本構想は、地域住民、民間企業、NPO、大学、和泉市等が連携、協働し、地域の持つポテンシャルを最大限に引き出し、単なる郊外住宅地ではない、和泉市久保惣記念美術館という本市の貴重な文化施設を核としたまちづくりを具体化するための指針として策定する。

2. 対象区域

本構想の対象区域は、和泉市久保惣記念美術館を中心とした概ね半径約 2 km 圏内の区域とする。（別図 1）ただし、この区域に縛られることなく、他地域との連携にも留意した構想とする。

別図 1



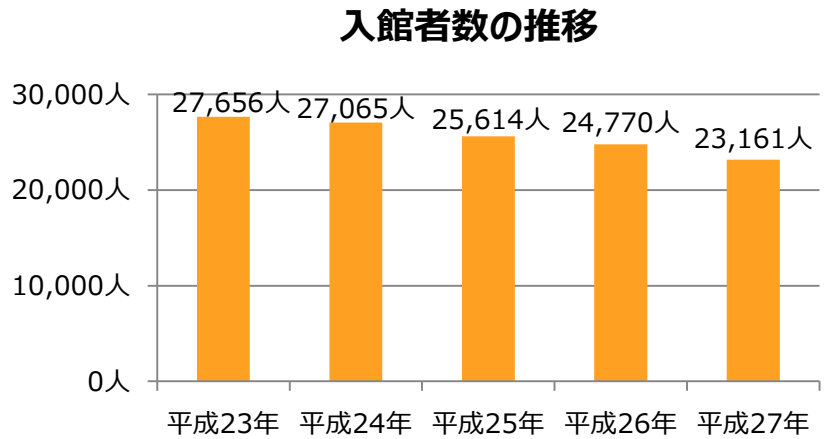
3. 現状と課題

(1) 和泉市久保惣記念美術館を取り巻く状況

① 現状

(ア) 入館者数の推移

入館者数は、直近5年平均で約26,000人となっており、近年は減少傾向にある。



(イ) 入館者の傾向

入館者は、50～60代の年齢層が多くを占めている。

また、入館者は、大阪府内（和泉市を

除く）から訪れる人が6割程度を占め、次に和泉市内からが2割、次に近畿圏及び全国からが2割程度である。

(ウ) 展覧会等の実施状況

所蔵する豊富な美術品を活用しテーマ性を持った展覧会を定期的で開催している他、併設する音楽ホールでのコンサート開催、市民の創作活動をサポートする久保惣創作教室や市民ギャラリーの運営などを行っている。

また、美術に対する理解や親しみを深めることを目的に、教育プログラムとして市内小学生を対象にしたミュージアムツアーを開催するなど、芸術、生涯学習に対する総合的な支援、活動を展開している。



② 課題

(ア) 認知度の向上等

- 昭和57年の開館以降、所蔵する美術品が充実することで、全国でも有数の美術館となり、和泉市外での認知度も向上しつつある一方で、和泉市の誇るべき資源であるものの、市民でも存在を認知していながら行ったことがない方が多いなど、市の文化芸術度の向上が認知度向上に向けた次のステップとなっている。

(イ) 美術館のイメージ向上

- 東洋古美術の名品に加え、浮世絵版画の所蔵数の豊富さ、また数は少ないが西洋近代絵画の名品を常設していることが美術館の強みともなっているが、一般的にはそうしたイメージが十分に浸透していない。

(ウ) 美術館への円滑な誘導

- 車での来館者が多数を占めるが、主要道路上などでは美術館に至るまでのサインが不足しており、円滑に美術館までの誘導が行えていない。
- 公共交通機関を利用した場合、電車とバスを乗り継いで来館となるが、バスの本数が少ないため、泉州以北からの来訪者の足が遠く一因となっている。

(2) 対象区域を取り巻く状況

① 現状

(ア) 人口構成

- 美術館が立地する内田町や近隣にあるのぞみ野、はつが野地区では、住宅地開発等に伴って、30～40代の転入が進み、子ども数が増加傾向にある。一方、街開きから40年以上が経過した緑ヶ丘地区や青葉台地区では世帯分離等による人口転出が進み、市内でも高齢化率が高い地域となっている。

(イ) 商業活動

- 平成26年にショッピングモール等がオープンしたことで、市内外から多くの人を訪れるようになり、対象区域内の人の流れに変化が生じている。
- のぞみ野地区、はつが野地区では居住人口の増加に伴って、飲食店等の立地が進んでおり、まちに賑わいをもたらす新たな魅力が加わっている。



(ウ) 地域活動

- ✓ 松尾川ふるさとの川整備
 - 和泉市久保惣記念美術館に隣接して、松尾川の河川敷沿いに地域住民が主体となって維持管理を行っている通称「ひつじ公園」があり、鯉のぼりの設置やホタルの鑑賞会、松尾川の清掃活動等、水辺環境の保全、地域づくりに取り組んでいる。
- ✓ 久保惣和泉野文化会の活動
 - 和泉市久保惣記念美術館に併設されている和泉市久保惣市民創作教室では、開館当初から市民団体である和泉野文化会が中心となり、年間700回近い文化創作教室を開催している。同会では、毎年5月に「久保惣いずみのフェスティバル」を開催しており、11月には「創作展」及び「陶芸フェスタ」を実施し、市民の文化創作活動を広めている。
- ✓ 和泉の国 JAZZ ストリート
 - 市民が主体となり、年1回和泉中央駅一帯で開催されているジャズイベント。和泉中央駅周辺の街中の店舗等を会場として、様々なアーティストによるジャズライブが繰り広げられる。

(エ) 地域資源

- ✓ 和泉シティプラザ
 - 平成15年に開館した図書館や市役所出張所、ホールなどを備えた複合施設であり、敷地内には、市民とのワークショップで製作されたアート作品が常設されている。市民の交流活動の拠点施設であり、和泉中央地区のシンボリックな存在。
- ✓ 和泉市いずみの国歴史館
 - 桃山学院大学に隣接する宮ノ上公園の一画にあり、市内の遺跡から出土した品々を中心に、和泉市の通史を常設展示している。和泉中央丘陵一体でかつて制作が盛んであった須恵器の展示は圧巻。



- ✓ 桃山学院大学
 - 平成 7 年に和泉市に移転開学して以降、数多くの学生が往来することで、近隣にあるのぞみ野地区や和泉中央駅近辺では店舗等が立地するなど、周辺地域に賑わいをもたらしている。
- ✓ 和泉リサイクル環境公園
 - 広大な敷地に、四季折々の花々が植栽され、市民の目を楽しませており、本市でも有数の観光拠点となっている。
- ✓ 松尾寺
 - 白鳳時代に創建された寺院で、国の重要文化財等多くの文化財が保存されている。また、桜、紅葉の名所としても知られる。
- ✓ テクノステージ和泉・トリヴェール和泉西部ブロック
 - 本地域一帯は、南大阪地域最大級のものづくり産業の集積地であり、府内有数の技術開発を推進する試験研究施設である大阪府立産業技術総合研究所も立地している。各企業が有する技術、人材を活用した体験プログラムの組成などが期待できる。



② 課題

(ア) 文化芸術による新たな地域魅力の創出

- 和泉市久保惣記念美術館や和泉市いずみの国歴史館では、展覧会などを開催し、文化芸術に親しむことのできる機会を提供しており、対象区域内における主たる魅力となっている。一方で、これら施設は誘客を期待できる対象区域内での大きな魅力であるものの、誘客効果は施設内だけに留まっており、そのポテンシャルを最大限には生かしてきていない。ポテンシャルを生かした文化芸術による新たな地域魅力の創出とその魅力に相応しい景観の形成を含めた空間づくりが求められている。

(イ) 総合的かつ一体的な地域魅力づくりと情報発信

- 対象区域内には、誘客を望むことのできる施設が集積しているものの、互いが個々にプロモーション活動を行っており、イベントの開催を例にとっても、異なる時期に単発的に行っている印象が拭えず、一体的な地域の魅力発信や誘客につながっていない。また、地域資源が点在しているため、それぞれの点と点を結ぶ交通網の整備や回遊性を高める仕組みづくりが求められている。

(ウ) 来街者を受け入れるためのまちづくり活動

- 「ひつじ公園」の例に見られるように、地域住民が主体となったまちづくり活動の取り組みが見られるが、区域が限定されており、周辺への波及効果が見られない。地域住民や NPO 等、対象区域内でまちづくり活動に関わる方々が相互に連携を図り、新たな魅力を創る・伝える組織の形成など、来街者をまち全体として受け入れる活動が求められている。

4. 構想の理念 「美術館とまちが融和した質の高い空間」

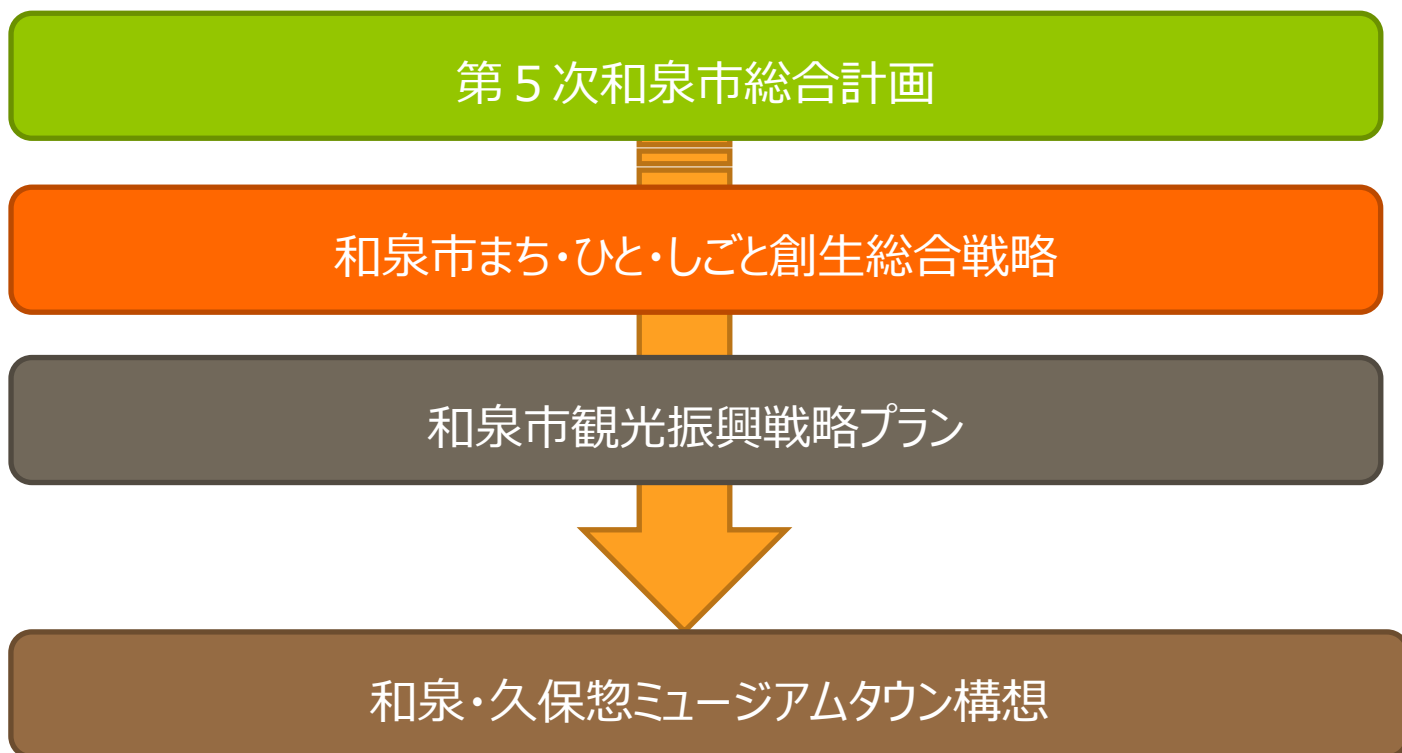
美術館それ自体がまちの中で独立した存在として主張するものではなく、まちの中に溶け込み、まち全体が美術館と融和した質の高い空間となり、また、そこに暮らす人々の営みや豊富な歴史資源、文化施設、自然環境などの資源が展示品のような魅力ある存在に昇華し、文化芸術を生み出す知的交流の場となることが、和泉・久保惣ミュージアムタウン構想の目指すまちの姿である。

これを実現するために、公共の福祉を使命とする「公」と地域の魅力創出や向上を担う「民」がそれぞれの役割を果たし、相互に連携を図りながら、美術館を中心とする地域価値の向上に向けた新たなまちづくりの仕組みを構築する。

5. 構想の位置付けと運用方法

「和泉・久保惣ミュージアムタウン構想」は、第5次和泉市総合計画、和泉市総合戦略といった上位計画や和泉市観光振興戦略プランを踏まえて、和泉市久保惣記念美術館を核とした周辺地域のまちづくり構想として位置づける。

構想の実現にあたっては、関係機関等との更なる検討や調整を行い、施策等に反映していくとともに、実施結果のフィードバック及びフォローアップを行い、構想自体の見直しも含めて運用していくものとする。



6. 実現に向けた目標と方針

理念 「美術館とまちが融和した質の高い空間」	目標 1	質の高い「時」を生み出す空間デザイン	方針 1	美術館と周辺の水辺や緑が調和したまちなみを形成する。
			方針 2	文化的・創造的な空間を形成する。
	目標 2	機能的な移動交通システム	方針 1	歩行と自転車による楽しい移動を促すシステム・環境づくり。
			方針 2	公共交通の充実による回遊性の向上を図る。
	目標 3	公民連携によるエリアマネジメント	方針 1	生活の質を高め、地域への愛着を育む。
			方針 2	ミュージアムタウン独自の価値を生み、発信する。
			方針 3	公民が連携した新たなまちづくりの方向を示す。

目標 1 質の高い「時」を生み出す空間デザイン

- 方針 1 美術館と周辺の水辺や緑が調和したまちなみを形成する。
美術館近傍を流れる松尾川、宮ノ上公園、かぐらざき公園など、エリア特有の豊かな水緑環境を生かし、周辺環境と調和したまちなみの形成を図る。
 - 取組例：ひつじ公園と一体性を持った美術館前通りの植栽、歩道のデザイン等
- 方針 2 文化的・創造的な空間を形成する。
美術館・歴史館が立地する特性を生かし、誰もがその地の歴史や文化芸術に触れ、創作に親しめる環境の提供等を行い、文化的・創造的な空間の形成を図る。
 - 取組例：地域住民の共同制作によるパブリックアートの設置等

目標2 機能的な交通システム

- 方針1 歩行と自転車による楽しい移動を促すシステム・環境づくり。
和泉中央駅と美術館を結ぶ軸を中心に周遊に適したコンパクトな立地特性を生かし、自転車利用が安全かつ容易な環境整備と利用の仕組みづくりを構築する。
 - 取組例：周遊サイクルマップの作成等
- 方針2 公共交通の充実による回遊性の向上を図る。
和泉中央駅を中心とした公共交通網の強化を図り、ミュージアムタウン対象区域内の利便性、回遊性の向上を図る。
 - 取組例：既存のバス路線を活用した新たな地域内循環バスの運行、民間駐車場等と連携したカーシェアリングサービス等

目標3 公民連携によるエリアマネジメント

- 方針1 生活の質を高め、地域への愛着を育む。
地域の安全性、快適性の向上に寄与する美化、防犯、教育文化活動などについて、意欲ある地域住民の主体的、継続的な活動に対する支援や参加を喚起する仕組みづくりに取り組み、まちづくりに関わる中核的人材の育成、住民間のネットワークの形成を目指す。
 - 取組例：ひつじ公園を中心とした地域活動への支援等
- 方針2 ミュージアムタウン独自の価値を生み、発信する。
ミュージアムタウン内の資源を生かした独自性の高いイベントの開催や、既存イベントなどとの連携を図り、地域の一体性を高める取り組みを推進し、地域魅力の発信を戦略的に行い、地域価値の向上を目指す。
 - 取組例：アートイベントの開催や既存イベントとの同時開催、ミュージアムタウン統一のロゴ、サイン、カラーの設定等
- 方針3 公民が連携した新たなまちづくりの方向性を示す。
美術館を核として、地域住民やNPO、民間企業、大学、行政等のパートナーシップによる新たなまちづくりの仕組みを構築する。
 - 取組例：地域住民や行政等の協働によるエリアマネジメントの推進等

7. 推進体制

本構想の実現に向けて、エリア価値の向上及びブランド化を図るため、地域住民や NPO、民間、大学、行政が、理念・目標を共有し、相互に連携しながら取り組みを推進するものとする。

また、取り組みを推進する場として、（仮称）ミュージアムタウン推進協議会を組織する。

